

SDGsに取り組む各種団体等の特集記事

令和5年度 マンスリーSDGs（北日本新聞） 第1回掲載日 令和5年9月24日

キャベツが描くリサイクルの輪



健菜堂

農作物の生産・加工を行う健菜堂（富山市草島）は、今年から循環型食品の「サイクル・ループ」を進めています。店のホテルで出る生ごみを安く購入・回収し、自社装置で乳酸菌発酵で堆肥化。この堆肥を自社農場で使用し、自社ブランドのキャベツ・高志の鶏肉として栽培・収穫。生ごみを回収したホテルにこのキャベツを取り扱ってほしいというものです。

社の理念として、もったいない。を重視する中、環境面での社会貢献や健康に寄与する施策を踏ま

コーヒーで社会課題解決



一番町珈琲

昨年10月にオープンした一番町珈琲は、「サステイナブルコーヒー」を取り扱っています。店の大浦英明さんは開業にあたり、社会全体の流れがSDGsに向かっていると考え、日本サステイナブルコーヒー協会に入会。同協会の緑、タイの少数民族の自立と人権回復の手段として生まれた下イトゥンコーヒーや、環境・人権に配慮した農園で作られるアルトルナ、フルーバーなど、社会課題の解決に貢献する豆の取扱っています。

またオープンにあり、大浦さんは富山市SDGs推進コミュニケーターの認定を受け、人脈がさらに広がっています。自店のホームページには、SDGsの17ゴールに対応した具体的な活動を明示、やるべきことを可視化することで、より積極的に取り組む動機付けになっていると話します。

最近では、妻のマダリナさんの出身地・ルーマニアの伝統料理と富山の地元食材にサステイナブルコーヒーを盛り込んだ定食「ニューも提供」。「サステイナブルコーヒーを通して、日本とルーマニアを融合した他にはない当店のオリジナルを掲げ、地域活性化や社会課題の解決に貢献したい」と意気込みます。

途上国の生産者サポート



HummingBird

チョコレート専門店HummingBird（富山市総曲輪）は、フェアトレード（公正な貿易）のカカオ豆や、地元食材を使った商品の製造・販売を通して、世界や地域の社会課題の改善にアプローチしています。カカオ豆は「児童労働が行われていない」環境で作られたカカオ豆のものを、購入するお客さんが多くて印象的だ。たとえ「オナーの時分さん」。「富山の人が大切に地域域のつながり」のように、社会的に意義のある活動を広げていきたい」と抱負を語りました。



[illegible]

地蔵にきいて、つりなで取り組む。D.O.も、まず金を出して、レジャー・スクエア(金山市)を、青学塾の生徒と協賛して、自由曲輪を、観光に、市民の流を、サポートすることに市内の取り組んでます。

地形詳細は、講演に市内各地を散策する。つりなで、は、10、80代が加わると人気ペンド。田辺友也は、歩きながら、話だけ聞いて、歩きながら、話を聞かなく、別目的の設けるところで、夢野園で自然と交流する。多世交代で、多世交代は、元氣になれるのは、1、2世代を、めま。



野村病院

野村病院（富山県水橋）は、4月、食料の無欠陥供給（*food no worry*）を院内で設置しました。

*food*は「食料」（東京）が運営、賞味期限切れやパッケージによって生じる可能性があり、食料を仕入れる市場価格が安くなり販売が難しくなっています。同院では低カロリー食品、加工タツタや低脂肪食品と健康を配慮したものの多くをそろえています。手帳に食品の卸し元をひと組で、同院でなく、福利厚生にも活用されています。

野村拓也理事長は「近隣に流通したい」と意気込みます。



さくらや 富山店

全日本流通センターの学生服、ユニフォームを販売する「学生服」部が、この春は「さくらや」の富山店・富山市中田口通りへは、着られないような新服や振袖、まき道などとも回収し、補修できるようにしながら、安価で販売しています。

同店を経営するのは手利勘子さん。もともと洋服のメーカと補修をも厭わなかったけれど、社会全体にみんな増えるような材料に疑問を感じ、制服市場でもいろいろな満足があるのではと、さくらやに加勢。現在市内小中学校、高校のものを中心に約４千種類

くれば団体もあります。また、手芸室ではＰＣ法・学生服（Ｓ）袖口に加工しており、ランドセルや、水色道服、胸字セーターといった学校用品の回収、譲渡なども行っています。３月には市内小学校へ奨学金提供し、多くの品物が集まりました。子育ては本当は「費用がかかるもの」と賢母と揶揄することもありますが、金部品が落ちなくていいライフスタイルもあることを提案したいと力を尽かしました。



CLEAN HERO

CLEAN HERO 富山県長崎町で活動している山手コンクリート掘削、大府地味を整理し、埋立地を前整理し、道品敷に用地開成で前整理する。同社を立ち上げしたのは、森の村井博昭さん。介護に関心をもった彼ら、家族介護にむかえるを目の当たりにし、何とかしたい」と昨年4月に同社を立ち上げました。「回復する物はすべて悪い出がある。なるべく捨てに、次の引き取り手を探し、それができると回収し、物品を、社会で福協協議を通じて生活

前時代、記号としてのSDGを愛蔵した妻にしまった」と村井氏。昨秋、村井氏と山手コンクリート掘削、大府地味を整理し、道品敷に用地開成で前整理する。同社を立ち上げしたのは、森の村井博昭さん。介護に関心をもった彼ら、家族介護にむかえるを目の当たりにし、何とかしたい」と昨年4月に同社を立ち上げました。「回復する物はすべて悪い出がある。なるべく捨てに、次の引き取り手を探し、それができると回収し、物品を、社会で福協協議を通じて生活



ホームドライ富山

県内各店舗を構えるホームドライ富山は、クリーニング・ホームに「エコカバ」を使用することで、衣類のダメージの削減を図っています。

クリーニング店は、洗濯・乾燥後の衣類を店内で保管するためにカバを着用するよう義務づけられている一方、保管するポリエステル包装のゴミがたまり、カバがカビの原因となり衣類の保管がままならないなど多くの問題がありました。

同社は、通常衣に比べ、店内での衣類を保管し通した「エコカバ」を開発し、2009年11月より

導入し始めた。エコカバの使用は、全店舗で年間1.5の削減が、衣類の劣化に比べ、衣類の適切な保管もつがっている」と語ります。

また、利便性が著しくなった衣服を収納し、自社クリーニング店に料金を徴収し販売する取り組みもある。スリクルも実施しており、福富SDGに理解と協力しています。利用客の取り扱と協力があめからそ実装された、いずれは、この取り組みがクリーン工業全体に広がってほしい」と話しました。